



ウトナイ中だより

校訓
文武両道

学校教育目標
創造律戦
創自挑

令和4年度 第4号 令和4年7月28日(木) 発行



ありがとう どうもね

ウトナイ中学校長 石 田 憲 一

我が息子、いいだけ生活物品や用事を要求した最後に「ありがとう」と言って、電話を切ります。『あれ、今まで「ありがとう」なんて言われたことあったかなあ〜?』と、照れながらの夫婦の会話になりますが、心当たりがない。家から大学進学で、外に出て覚えたのでしょうか?。いや周囲がみんなそうだから、と気づくのに時間はかかりません。

というのも、息子が外に出た場所は“大阪”です。私も高校の修学旅行で関西へ行った際、駅のキヨスクで飲み物を買ってお金を渡した後、売店のおばちゃんが『ありがとう、おにいちゃん』と言ってくれたことが、とても印象に残っています。その後、私は大学進学で大阪で4年間過ごすのですが、先生や下宿のおじちゃんおばちゃん、友人、先輩後輩と交わす会話は「まいど」「おおきに」「ありがとう」と言う言葉を聞かないことがない日常でした。そして、その時々、人のやさしさやあたたかさ、ユーモアなどの人情を感じた学生時代でもありました。

我が息子、あちらへ行って数ヶ月ではありますが、少しは周囲からそんな情けある言葉を感じ取り、自然と「ありがとう」が言えるようになったのかなあ〜と思うわけです。

さて、皆さんのお子さんの日常は、いかがでしょうか。

北海道では、「どもねえ〜」という方言になりますでしょうか。

これまで、校内を回ったり、放課後や土日、部活動におじゃましたりすると、ちょっとしたことで、たくさんの生徒から丁寧に「ありがとうございます」と言われます。いつも感心します。

『おはようございます』『こんにちわあ〜』と挨拶される以上に、うれしく思える瞬間です。

学校においても、気にして声かけに努めてまいりたいと思います。この夏、お子さんたちは家や地域で過ごすことが多くなります。ぜひ、ご家庭でも、ちょっとしたことで“気づいて”言ってあげる、言うようにするをぜひ心がけていただけたらと思います。

最後に、1学期修了にあたり、保護者の皆様には、未だ終息の見通せないコロナ禍ではありますが、本校の教育活動に、多くご理解ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。この夏は盛夏になる日々もあるかと思われませんが、十分お身体に気をつけられ、各ご家庭で笑顔あふれる日常をお過ごしください。

